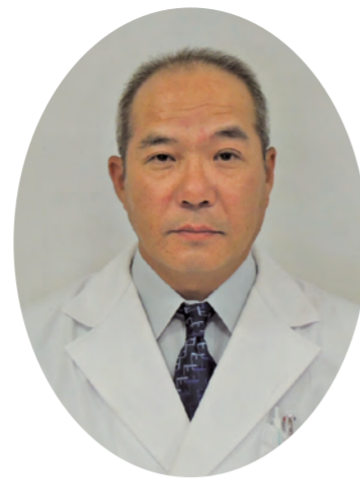


日本医療機能評価機構認定病院
京都山城総合医療センター
 Kyoto Yamashiro General Medical Center
 発行元責任者 中井 一郎

本年9月1日付けをもちまして、京都山城総合医療センターの院長に就任致しました中井一郎と申します。就任にあたり、みなさま方にご挨拶申し上げます。

私は、昭和55年京都府立医科大学医学部を卒業し、同大学の旧第一外科に入局しました。その後同大学を中心に勤務していましたが、中笠前院長のお声がけにより、平成16年9月に乳腺内分泌外科部長として当院に赴任致しました。平成19年3月からは副院長を命ぜられ、病院運営の一端を学ばせて頂きました。その主たる役割は地域包括医療の推進、研修医を含む職員教育制度の整備、また電子カルテなどの導入・刷新などでありました。

当院は昨年8月にめでたく開設60周年を迎え、これを節目に本年5月1日より「公立山城病院」から現在の「京都山城総合医療センター」に名称を改めることができました。「開設60周年記念文集」を見ますと、昭和27年の開設以来、地域の方々の思いとともに当院に人生を捧げられた先達の努力が滲み出ており、現職の我々を励まして頂きました。歴代院長杉島先生、岡村先生、中笠先生、誠に「苦勞さま」でした。今後とも「支援」「指導」をよろしくお願い申し上げます。京都府の認可も得られた上で施設名として「医療センター」となりましたが、これからは京都府南部の真



京都山城総合医療センター
 院長
中井 一郎

地域のみなさまにより適切・的確な医療を提供できる体制づくり

の中核病院としての実力を問われることとなります。木津川市および和束町、笠置町、南山城村を母体とした病院であることには変わりありませんが、当地域の相乗医師会、山城南保健所のみならず京都府や府立医科大学との関係もより重要になると推察されます。このような重要な時期に院長を拝命することは光栄でありますが、また、背中と心にずしりと重いものを感じております。髪も切りまして、心機一転この重責を全うしたいと思っております。

さて、私のモットーは「生懸命」であります。これは90歳になる母親が、事あるごとに「生懸命やりなさい！」としか言わなかったからだと思います。また、今後の病院としてのモットーですが、「和気あいあい」とより良き医療を目指そう」としたいと存じます。組織が少々大きくなって参りました。必然のこととして各部署においてゆめゆめり仕事をこなす方、てきぱき仕事の出来る方、また有能にもかかわらず家庭の事情や子育てに時間を費さざるを得ない方などそれぞれに職の捉え方が異なります。お互いの立場・事情を理解し「和気あいあい」とした雰囲気職場となること、病気の方々に対応する病院組織として最も大切なことと考えております。

地域住民のみなさまに適切な医療を提供するための今後の課題として、

- ① 医療内容の更なる充実
 - ② 職員労働環境の改善
 - ③ 継続的な健全経営
- を掲げたいと存じます。①の実現のためには、医師・看護師のみならず各職種の人材確保に、鋭意努力を続けたいと思っております。また、最新の技術を導入するため、府立医科大学との人的交流をより一層深めて参ります。②は前述の如くですが、

足のトラブルはいろいろあります

リハビリテーション科 理学療法士・フットケアトレーナー
岡村 孝文

人は二足歩行することで進化し、スポーツや文化活動を発展させてきました。でもその反面、二足歩行は運動や姿勢のバランスを崩しやすく、その負担が体のいろいろな部位にかかっていきます。つひつひは小さな負担でも、それが長年にわたって毎日続くと痛みとなって現れる場合、バランスの崩れからくる膝関節の痛みについて考えてみましょう。

あなたの足は大丈夫？

足のトラブルは外反母趾や扁平足、内反小趾、スポーツ障害等ではありません。中高年の方の障害として多いのが「膝の痛み」です。その代表的なものが「変形性膝関節症」です。年齢とともに関節の軟骨が磨り減ったりして痛みが出るもので、50〜70代の女性に多く発症します。原因として老化、肥満、O脚やX脚、筋力低下、膝の使いすぎ、体質、過去の外傷等さまざまな要因が指摘されています。

バランスが崩れると負担が膝に

変形が進行してくると人工関節の手術の適応となる場合も生じてきます。変形性膝関節症の人は外反母趾を合併している方が多いという特徴があります。外反母趾を併発すると、母趾を上手に使って歩けなくなります。すると歩き方のバランスが崩れ、膝に負担がかかるような脚の動きをもたらし、痛みとして現れる、という事が考えられます。歩き方のバランスが崩れ



**ご相談は水曜日の午前中
 「要」電話予約**

足や靴の問題で困っている方はご相談ください。相談日は水曜日の午前中・予約制となっております。まずは整形外科(火曜・木曜)を受診して頂きリハビリ科で来院日時を予約してください。

地域の中核病院で一緒に働きませんか

看護職員募集

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.yamashiro-hp.jp/>

看護部もしくは事務局まで
TEL 0774-72-0235

お気軽に
 お電話ください。

**介護老人保健施設「やましろ」だよ！
 入所したい？でもどうすれば？**

入所の理由は人によってさまざまです。ただ、施設入所は自宅での生活が困難になったからという理由だけではありません。より長く在宅での生活を続けていただくための短期間の利用もありま。今回は、そのような介護老人保健施設の利用の仕方をご紹介します。

例1 寒い時期に入所したい
 冬場、自宅での生活は寒いので、「関節が痛む」「肺炎にかかりやすい」「デイサービスに行くのも億劫になる」など、悩まれている方もおられると思います。施設内は、暖房設備が整っていますので、寒い冬場でも快適に過ごしていただくことができます。

例2 家業のお茶が忙しい時に入所したい
 デイサービス、ショートステイなどを利用しながら在宅生活を続けているが、4月から6月にかけて、お茶の繁忙期で家族が自宅で介護することが難しいという場合、その期間だけ入所していただくことも可能です。入所中にリハビリを頑張つて、自宅に帰られる頃にはもつとお元気になるかもしれません。

例3 入院してそのまま自宅に帰るのが不安
 病院に入院して、ベッドで横になる生活が続き、排泄や歩行がしづらくなった。このままの状態では自宅に帰るのが心配という話をよく耳にします。そんなときは、老健に入所してしばらくリハビリを継続し、ご本人の身体状況とともに自宅の環境もゆつくりと整えていただき、安心して「自宅での生活ができるよう準備をしていたらいいのでは？」でしょうか。

以上、簡単に例をあげてみました。在宅に帰れる場合には当施設のスタッフが退所にあたってのアドバイスもさせていただきます。居室のケアマネジャーとも連携を取ってスムーズに在宅生活を送ることができるよう支援させていただきます。

「施設入所は敷居が高い」「入所なんてまだ早い」と思われている方もいらっしゃるでしょう。実際に見学していただき、施設の雰囲気を見ていただければイメージが変わるかもしれません。老健やましろは、「明るく、楽しく」をモットーに、「ご利用者さま、職員とも明るく楽しく過ごしていただけるよう支援させていただきます。お気軽にご相談ください。」

介護老人保健施設やましろ
 TEL (0774) 73-0359

やましろニュース

6月19日、24日、25日に
 恭仁京にあじさいを見に行きました。あじさいの花の鮮やかな色と緑がとてもきれいでした。

有能な人材の確保・育成のためには、その持ち場や待遇への配慮も不可欠と思われま。③につきましては、この3カ年は幸いにして黒字決算となっております。しかし、昨今のわが国の財政事情、急速な高齢化などを考慮しますと、消費税付加や診療報酬改定は脅威であり、先を見すえた対応を心掛ける必要があります。

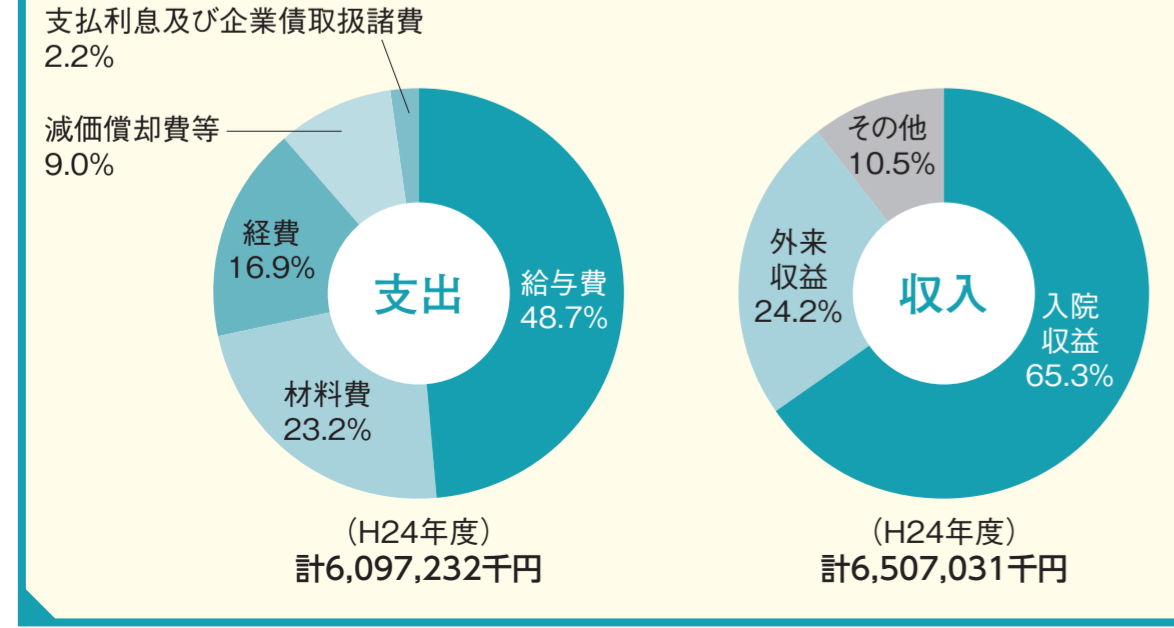
病院組織の進化の手段として、病院機能評価(SDG-Vet.1.0)を来年6月に受けること致しました。第三者機関の審査を通して、当院の欠点を修正し、患者さまへの医療内容・サービスを直す良い機会にしたいと思います。極力多くの職員

員の参加のもと、各部署での業務内容向上に繋がりたいと存じます。

最後になりますが、私は欠点だらけの外科医であります。これからは中河院長代理、新井副院長をはじめ、多くのみなさまに支えられての新たな船出となります。木津川市長、河井管理者、石田副管理者のみならず老健やましろ施設長、赤坂先生、前院長、中笠先生の両参与も、多くの経験から私共を正しい方向へお導きくださるものと確信しております。地域住民のみなさまには、今後とも京都山城総合医療センターにご支援をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

**平成24年度につきましては、『第二次経営改革プラン』に基づき、
 推し進めてまいりましたところ、約4億9百万円の黒字決算が見込まれることになりました！**

- 【主な取組み内容】
- 医療機器等の更新及び建物設備等の改修 (約4億1,500万円)
- 購入した主な医療機器等
 電子カルテシステム更新、透析用監視装置、温冷配膳車、X線一般撮影システム、手術台、採血業務支援システム、
 生体情報モニター、ナースコール、
 電話交換機設備更新等
- 患者数の増加(前年度比)
- 平成24年度診療報酬改定に伴う新たな取得
 より質の高い医療ができるよう、チーム医療や高度な手術などの施設基準を取得しました。また、手厚い医療を行えるよう医療スタッフ(コメディカル)、医師や看護師の負担を軽減するため医師事務作業補助者や看護補助者の増員を図りました。



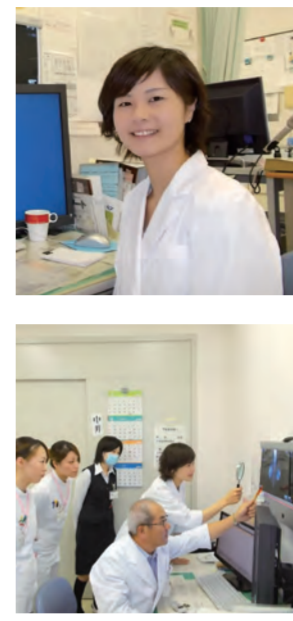
新名称「京都山城総合医療センター」のスタートとともに、更なる医療・サービス・質の向上を目指して。

当院は「京都山城総合医療センター」として新しいスタートを切って以来、さまざまな新体制づくりや質の向上に努めています。平成21年度に策定しました「経営改革プラン」も年を追うごとに効果が上がり、昨年度も大幅な黒字が見込めることになっていました。今後も、当院は京都府南部地域の真の中核病院として地域のみなさまの健康と長寿を願い、惜しみなく努力を続けてまいりますので、旧に倍してのご支援をいただきますようお願いいたします。

乳がんは早期発見が大切 ぜひ乳がん検診を受けてください

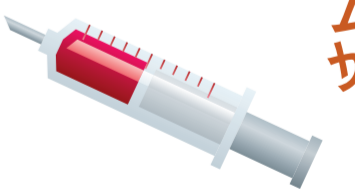


みなさま初めまして。
4月から木曜日の乳腺外来を担当させていただきます。
平成18年京都府立医大卒、ヨット部出身です。
旅行が好きです。1歳と3歳の息子がおります。
乳腺外科は乳腺という単一臓器を扱うので守備範囲が狭いようですが、実は健診あり、手術あり、化学療法あり、非常に奥が深い科です。患者さまは圧倒的に女性が多いので、女性として患者さまの立場に立った医療を提供できるように心がけています。



乳がんの話題はよくメディアに登場します(少し前にアンジェリーナ・ジョリーの予防的乳房切除が目玉されましたね)。実際患者さまは増えており、20年前の約3倍、20人に1人が乳がんにかかれています。ただし、乳がんは早期に発見できれば治るがんなので検診が重要です。何かお困りの事があれば気軽に声をかけてください。みなさま、この機会にぜひ乳がん検診を受けてください!!

7月より 採血室のシステムが 変わりました



当院では、外来診療時に患者基本票をお持ちいただき患者さまの確認をさせていただいておりましたが、採血室ではさらに診察券による患者さま誤認防止のシステムを導入いたしました。

採血室の受付には、自動受付装置を設置し、診察券を挿入していただくことで患者さま確認のための受付票(受付番号)を発行します。受付番号により待ち時間のストレス軽減やスムーズなお呼出が可能となり、患者さまからも好評を頂いております。

また、採血時には検査情報の入ったバーコード採血管と受付票のバーコードを照合することで取り違いを防止できるようになりました。

一方、採血台につきましても車椅子の方や患者さまの身長に合った高さ調節できる採血台を導入し、また、プライバシーも確保できるような構造になり、より安全な環境になりました。

採血室に検査に来られる方は、お手数をおかけしますが診察券をお手元にご用意いただけますよう、よろしくお願いたします。

今後みなさまに安心して、安全に検査を受けていただけるよう努力していきます。



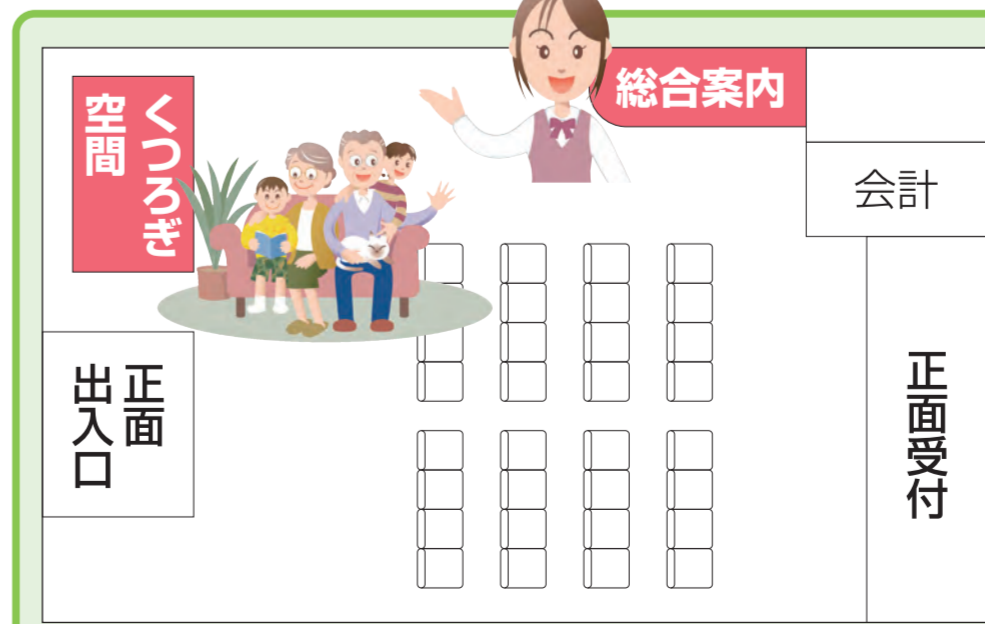
新設 総合案内「コーナー」 患者さまに よりわかりやすい 案内を目指して

年内を目途に、患者さまによりわかりやすい案内ができるよう正面1階フロアに「総合案内コーナー」の設置を予定しています。

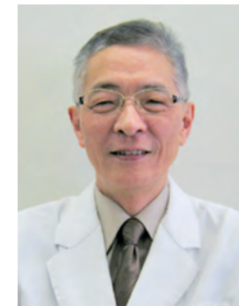
総合案内では、初めて受診される方へのご案内、開業医からの紹介受診などの「地域連携窓口」、新たに「入院受付」、「医療相談窓口」としての運用を考えております。

気軽に総合案内にお声をかけていただきますようお願いいたします。

また、みなさまにくつろいで頂ける空間をご用意する予定です。ご利用ください。



糖尿病や予備軍の方への トータル・ケアを



糖尿病センター長 中埜幸治

「存じのように、わが国や東南アジアにおける「糖尿病その予備軍」は年々増加し続けており、厚労省の「国民健康・栄養調査」で、糖尿病患者約890万人、予備軍約2210万人(対総人口比17.6%)と10年前と比較して糖尿病1.3倍、予備軍3.3倍になっています。当院の受診糖尿病患者さまも10年で約4倍(約4000人)になり、現在も増えています。糖尿病になりますと、種々の合併症により、A・D・L(日常生活活動状況)とQOL(日常生活の質)が低下し、介護度が

上昇します。

そこで、糖尿病やその予備軍の方に当院独自のトータルケア(包括的対処)の実施を目指し、今年4月1日に「糖尿病センター」を開設、さらに診療内容を深めるために京都府立医科大学糖尿病・内分泌教室との連携を密に図ってきました。

平成25年9月1日から、糖尿病・内分泌専門医として地域のみなさま方に役立つと思っておりますので、今後とも住民のみなさまのご支援をお願いいたします。

EVENT ふれあい 看護体験

今年も府内の高校生4名が 元気な看護師に変身!

「ふれあい看護体験」とは、医療関係者、患者さまとのふれあいを通し看護や命について理解と関心を高め、看護に興味を持ち、看護の道へ進むきっかけや目標にする事を目的として、京都府看護協会が府民のみなさまに対し毎年行っている行事です。

今年7月23日(火)に、府内の高校2年生3名と3年生1名の計4名が看護体験に来られました。クラブ活動で真っ黒に日焼けした姿から、白衣に着替え、すっかり新人看護師に変身です。午前午後と約4時間、血圧を測ったり、患者さまとお話をしたり、新生児室では生まれたての赤ちゃんとお話あうことができました。

体験後には「看護師の仕事は大変だと母から聞いていたけど、やりのある仕事だ」と思った「助け合って働く姿を見て、やってみたい



と思った」とうれしい感想を頂きました。

毎年6月〜8月にこのような看護体験を受け入れていきます。看護に興味がある方、中学生以上であれば「京都府看護協会」ホームページより申し込みができます。一緒に感動を共有してみませんか。



外部から有識者を招き、 処遇調査委員会を開催

京都府南部の中核病院としての機能充実のためには、医師・看護職をはじめとした医療職の質的・量的な更なる充実が必要であり、とりわけ看護師の充実が喫緊の課題であります。多くの病院において看護師が不足している状況下では、病院運営の質を維持するためには、避けて通れない大きな課題であります。

これまでも、学校訪問を繰り返すとともに、就職説明会に参加する等幅広く誘致活動を展開しているところです。

また、将来当院において、看護業務に従事しようとしていらっしゃる方に対し、修学資金を貸与する制度や、遠方からの就職者に対し看護職の確保などの施策を講じているところですが、まだまだ厳しい状況です。

そのため、5月27日に

て辛い、など痛みは身体や心に大きな苦痛をもたらします。

がん性疼痛認定看護師は治療期から終末期に至るまで適切に身体状況をアセスメントし、痛みが和らぐことで治療がよりよく進んでいくように、また根治治療が困難であっても痛みによって起こる身体や心の苦痛が緩和され、がんと共に生きる事ができるように看護の面からサポートします。

患者さまが抱える痛みや辛さを和らげるため、



座長 京都府立医科大学大学院 渡邊教授

外部有識者委員らによる看護師処遇調査委員会を立ち上げ提言を頂くことになりました。京都府立医科大学大学院医学研究科の渡邊教授を座長にこれまで2回の委員会が開催され、次のようなことが協議されました。

第1回委員会(5月27日)では当院の現状について説明し意見交換をしていただき、次回委員会に向けて指示を受けました。

第2回委員会(7月22日)では、給与制度および給与水準(初任給等)比較分析、ワーク・ライフ・バランスの観点からみた就業環境の分析、新卒採用活動や施策の分析を行っていただきました。

今後は看護師の確保・定着の方針案の提示と検討をして頂き、10月末までに提言を頂く予定をしております。

スタッフ 通信

がん性疼痛認定看護師の資格を取得



看護師 大野 恵

この度、病院からの支援を受けて2013年7月にがん性疼痛認定看護師の資格を取得しました。

みなさまは「存じでしょうか?」がん患者さまの70%の方が痛みを経験するといわれています。痛みがあることで治療に頑張れない、毎日の生活のなかで当たり前前にできていたことができなく

